

高松市創造都市推進懇談会(通称：U40)の これまでの活動について



高松市創造都市推進懇談会とは

本市が創造性を生かしたまちづくりを推進するに当たり、各方面で活躍している若い世代の意見を聴き、20年後、30年後を見据えたまちづくりを目指していくため、平成24年11月から要綱により設置されている類似機関。

第1期

(平成24年11月30日～
平成26年11月29日)

- 異業種交流空間創出事業

第2期

(平成26年11月30日～
平成28年11月29日)

- 公開U40

第3期

(平成28年11月30日～
平成30年11月29日)

- U40プロジェクト事業

第4期

(平成30年11月30日～
令和2年11月29日)

- 6つの事業アイデア

第5期

(令和2年11月30日～
令和4年11月29日)

- キャッチコピーの作成
- 「高松市通信簿」の実施



●異業種交流空間創出事業

U40からの提案事業。

当時使用されていなかった高松市美術館喫茶室を有効活用し、市民の連携や異業種交流を促すことを目的とした社会実験。

夏会期と秋会期の2期間を公募し、秋会期をU40の有志が中心となって設立した「(一社)Coクリエイション」が、「紺屋町カフェ」というネーミングで、「学びの場」をテーマにカフェを展開し、講座やワークショップを開催したほか、庵治石製品や漆器の展示販売などを実施。



第2期U40(H26.11~H28.11)の主な活動について

●公開U40

「食育・学校給食」から「空き家・空き店舗・空地などの活用」まで幅広いテーマを基に議論を実施。様々な議論を経て生み出されたアイデアを、高松らしいまちづくりのプランとして「公開U40」という形で発表を行い、約110人ももの傍聴者が参加。また、発表内容『EXTRA（すきま）』の中の『非言語サインの増加』と関連して、空港までのバス乗り場に、飛行機を表す「ピクトグラム」が掲げられるようになる。

【発表内容】

- ライフスタイルの創造
 - 空き家・空き店舗対策
 - こども・教育
 - コミュニティ
- 『EXTRA（すきま）』
『カーペンターズ アンダー アーケード』
『創造的少子化対策』
『市役所とのヒトづくり～10,000人で高松を変える～』



●U40プロジェクト事業

U40委員自らが企画・発案し自ら取り組んだ本市の活性化に資する4つの事業。

●パラ陸上事業

(第29回日本パラ陸上競技選手権大会に向けたマップ作成)

●情報発信事業

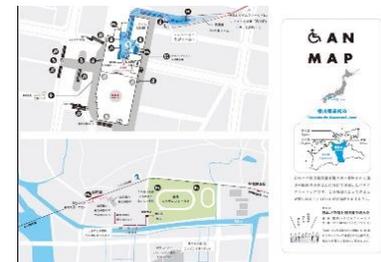
(ハッシュタグ「#upTAK」のモニュメント作成等による周知)

●工芸ウィーク事業

(工芸に特化した期間を作るイベント企画)

●仕事PJ事業

(「関係人口」層をターゲットにした多様な高松とのかかわり方の検証)

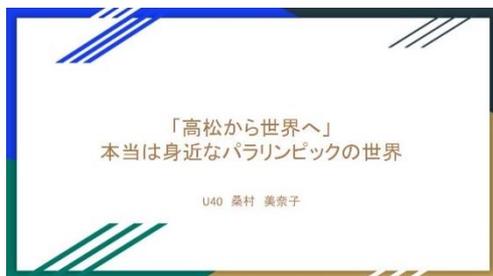


●6つの事業アイデア

『役所の変革の火種』として、関係部署との意見交換を経て6つの事業アイデアについて二役に提案。

【6つの事業アイデア】

- ことばのバリアフリー～「やさしい日本語」の活用～
- 中高生発 もっと高松プロジェクト
- 「高松から世界へ」本当は身近なパラリンピックの世界
- 工芸×島の食
- 伝統的工芸品の広報物づくり
- 文化施設×ソーシャルインクルージョン



文化施設×ソーシャルインクルージョン

資料館 × 美術館 × 図書館 × 社会的包摂

多様な人々を歓迎する
ミュージアムへ



■事業内容

●工芸×島の食

・伝統的工芸品を使った器、箸、カップなどを使える場を提供する

→瀬戸内国際芸術祭の大島のカフェでドリンクを提供する際に漆器を使用など

・島の食材は芸術祭中と重なり提供できるものが少ないため、来年度へ実施に向けて検討したい

●伝統的工芸品の広報物づくり

・SNSで情報を発信する

・「たかまつ工芸ウィーク」Instagramの連携



第5期U40(R2.11~R4.11)の主な活動について

●キャッチコピーの作成

「自分にとっての高松」をお題として、各委員がキャッチコピーを作成。



●「高松市通信簿」の実施

各委員が高松市の課題をもとに、アンケートを作成。

U40が「若者」と「市政」のつなぎ役となり、社会において少数派である40歳未満の若者世代の意見を、高松市政に届けるために、各委員が高松市の課題をもとに、アンケートを作成。

結果を集計・分析した内容をもとに、市長と意見交換会を実施した。



アンケート結果
はこちらから御
覧ください。

